

# 新潟県に災害をもたらした主な気象事例

(昭和41年7.17水害) 昭和41 (1966) 年7月16日から19日にかけての大雨

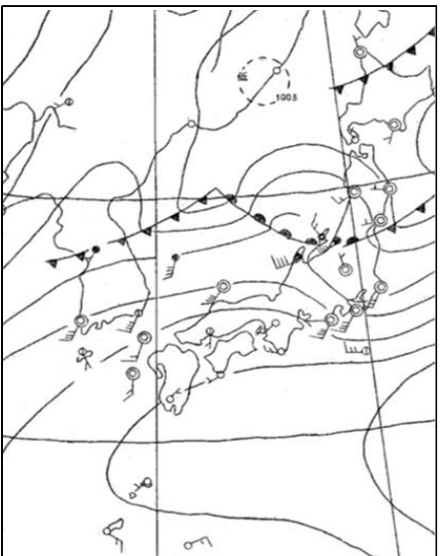
## 梅雨前線の停滞により下越で3日にわたる大雨 ～加治川が氾濫し大水害～

### 【概要】

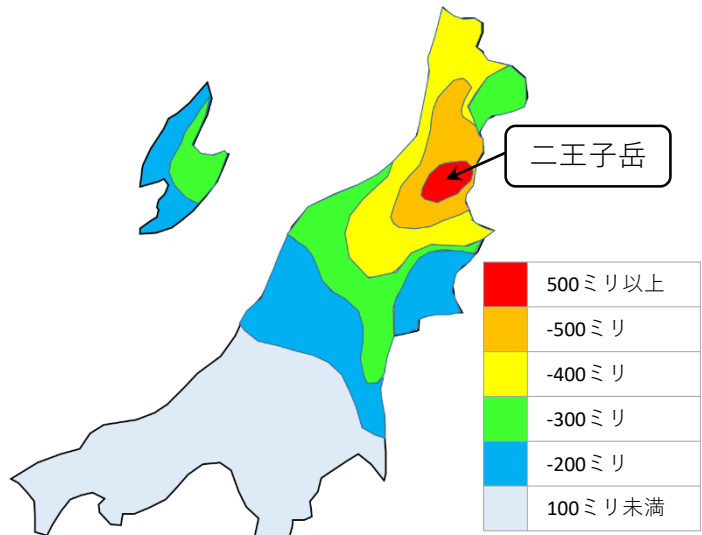
昭和41年 (1966年) 7月16日未明から18日朝にかけて、梅雨前線が北陸地方に停滞した。太平洋高気圧の縁辺を回る暖かく湿った空気や、前線上に発生した低気圧により、前線の活動が16日未明から夜にかけてと、17日明け方から18日明け方にかけての2回にわたり活発になり、新潟県下越を中心に大雨となった。地域によっては1時間あたり数十ミリの雨が数時間降り続き、新発田市赤谷では16日の降水量が225ミリに達し当時の日降水量の記録を更新した。また新発田市二王子岳では、16日0時から18日15時までの降水量が555ミリに達した。

この大雨により、下越では中小河川の氾濫が多発し多くの洪水被害が発生した。特に新発田市を南東から北西に流れる加治川は堤防の両岸が大きく決壊し、浸水家屋が1万戸を超える大水害となった。さらに溢れた水が低湿地で長時間湛水し、水稻をはじめ農業に深刻な被害をもたらした。

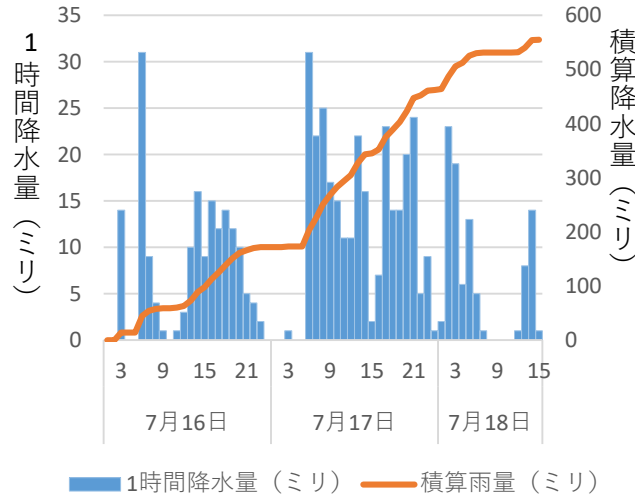
(被害状況は「異常気象報告」(新潟地方気象台、1966)による)



地上天気図 昭和41年7月17日9時



昭和41年7月15日9時から18日9時までの総降水量



新発田市二王子岳の1時間降水量の推移